

2022年10月 診療カレンダー

住所: 東京都中央区日本橋大伝馬町13-8
 メディカルプライム日本橋小伝馬町3階
 TEL: 03-3639-3110 FAX: 03-3639-3112

2022年11月 診療カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
2	3	4	5	6	7	1/8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31	1	2	3	4	5

日	月	火	水	木	金	土
30	31	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	1	2	3

・インフルエンザ
 予防接種開始
 しました
 ・健康診断
 やってます

ホームページ
 院長ブログ公開中

18時最終受付

一般診療	月	火	水	木	金	土	日
10:00-13:00	●	●	●	●	●	●	×
15:30-19:00	×	●	●	●	●	×	×

●9:00-12:30

「今月の言葉」

花が咲こうと咲くまいと、生きていることが花なんだ
 ~アントニオ猪木(プロレスラー)~

<お知らせ>

- ・インフルエンザ予防接種始めました。WEBかTELで予約を
 予約電話 TEL 050-3181-2565 (午前中のみ)
- ・マイナンバーカードの健康保険証利用が可能となります

家族の入院

キンモクセイの香りが秋の訪れを感じさせる今日この頃ですが、皆さまいかがお過ごしでしょうか？今回は息子の病気のことをお話しします。

8月残りわずかなある日、午前中の外来診療中に妻から、高校3年生の長男の具合が悪いと連絡がありました。すわ、流行中のコロナの感染かと思いましたが、本人に電話を変えると「右胸が痛い、呼吸をすると苦しい」とのこと。以前から辛い、苦しい、痛いと言わない子供だったので、もしや気胸ではないかと心配になり、すぐに近くのクリニックへ行ってレントゲンを撮ってもらうように伝えました。

クリニックではすぐにレントゲンを撮影してもらうと、案の定、自然気胸、しかもかなり進んでいて病状はよくないとのことでした。すぐに昭和大学江東豊洲病院へ紹介状を書いていただき、妻と一緒にタクシーで緊急外来に向かいました。私も気が気でなく、昼休みを利用して電車に飛び乗り、病院へ駆けつけました。私が到着したとき、ちょうど呼吸器外科のY先生の診察中でした。先生から説明を受け、息子はトロッカー(胸郭にたまった空気を出すための管)を挿入して入院ということになりました。私は午後からのクリニックの外来がありましたので、処置室でトロッカーを入れる処置をして車椅子で出てきたところで息子とお別れとなりました。痛みを耐えていたのか、ほとんど言葉を発することもなく、管につながれ車椅子でうつむく検査着姿の息子は、まさに「病人」で、その姿には胸が締め付けられるような思いでした。

今はどこでも同じだと思いますが、江東豊洲病院でもコロナ感染対策のために入院中の面会は原則として不可。入院後にはもっぱら電話やLINEでの連絡ということになりました。高校3年生といえどもまだまだ子供、困っていることはないか、きちんと食事はできているか、病状はどうかなど心配は尽きません。夜、本人とLINEのテレビ電話で顔を見るとホッとしたものです。

入院後も息子の病状は思わしくなく、結局手術を受けることになりました。手術前日の夜に担当のY先生より手術の説明と承諾書のお話があり、その時に、初めて息子と面会することができました。思ったよりは元気でしたが、頬はこけ、やせ細った肩に触れるとかわいそうで涙が出そうでした。

手術は土曜日の午後に行われることになりクリニックの外来の後、急いで駆けつけました。それほど長い手術時間ではなかったとはいえ、控室で待っている時間は本当に長く、落ち着かないものでした。色々仕事道具や本を持ち込んでいたのですが、結局は手つかず、何一つできませんでした。手術は無事に終わりICUで息子と対面した後にY先生から説明を聞いて病院を後にしました。疲れ果てた妻と私は灯りのともるタワーマンション群の豊洲の町をとぼとぼと帰宅、外は陽が落ち、すっかり暗くなっていました。

実は私も今回の息子と同様の経験をしています。医学生5年生のときに胸が痛くなり、友人のTが車で休日診療所に連れて行ってくれて、そこで自然気胸と診断されました。その後別の病院へ行き、トロッカーを入れて入院となりました。気胸はトロッカーを入れるとすぐに肺が膨らんで軽快することが多いのですが、私の場合はなかなか良くならず、手術となりました。入院中の様々な出来事やトロッカーが痛かったこと、手術後に苦しかったこと、退院したときに体力の落ちてしまったことなど自分のことは今でもよく覚えているのですが、入院してからのどのように友人に連絡したのか、家族への連絡など自分以外の詳細なことはほとんど覚えていません。

たしか手術の時には千葉から母がやって来たのですが、その時にどんな会話をしたのかも覚えていません。今考えると遠い札幌で入院して手術しなければならなくなった息子をとても心配していたと思うのですが、当時は母のことを気遣う余裕はありませんでした。

私が勤務医のころ、循環器疾患の特徴として緊急入院の患者さんが多く、患者さん本人にはいつも誠心誠意接していたつもりです。しかし家族のことまで十分考えて対応していたか、しっかり寄り添っていたかといわれると、必ずしもそうではなかったと反省することがあります。

実は6月にも母が緊急入院をし、ここでもコロナを理由に面会することができずに、気をもむ毎日を過ごしました。今回息子が入院・手術ということになって、あらためて患者さん当事者だけでなく、患者のご家族がどれだけ不安で心細い思いをしているか、会いたい気持ちでいらっしゃるかを痛感しました。コロナを理由にした長きにわたる入院中の面会の制限のなかで、患者さん、ご家族には本当に辛い状況が続いていると感じました。

クリニックでは入院や手術などはありませんが、患者様一人一人と向き合うなかで、ご家族のことにも思いを寄せ心をこめて診療を続けたいとあらためて思いました。

お蔭さまで息子は術後の経過は順調で、今では通常通りに学校に元気に通っています。昭和大学江東豊洲病院の主治医のY先生には本当に丁寧に診療していただけてとても感謝しています。